

30年3月分

問屋、仲買・小売商の先行き動向調査

1. 調査実施期間

平成30年 3月1日～ 30年3月10日

2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の問屋、仲買・小売商に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は42社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)−「減少」の評価を行った回答の割合)×2−「やや減少」の評価を行った回答の割合)÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

| 品目 | | 30/3月 | 4月 | 5月 |
|------|-----|--------|-------|-------|
| 仕入動向 | 国産材 | △ 10.6 | △ 4.5 | △ 1.6 |
| | 外材 | 1.3 | △ 1.3 | 0.0 |
| 販売動向 | 国産材 | △ 3.0 | △ 7.6 | △ 1.6 |
| | 外材 | △ 2.6 | 2.6 | 2.7 |
| 在庫動向 | 国産材 | △ 8.8 | △ 3.1 | △ 1.7 |
| | 外材 | △ 2.6 | △ 2.6 | △ 6.8 |

・国産材の仕入、販売、在庫動向は3カ月連続減少。

・外材の仕入動向は3月の増加から4月は減少、5月は横ばいに。販売動向は3月の減少から4月、5月は増加に。在庫動向は3カ月連続減少。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

| 品目 | 30/3月 | 4月 | 5月 |
|----------------|-------|------|------|
| スギ正角(グリーン) | △ 2.2 | 0.0 | 0.0 |
| スギ正角(KD) | 6.3 | 4.2 | 4.5 |
| ヒノキ正角 | 10.0 | 4.0 | 0.0 |
| ヒノキ土台角 | 8.0 | 4.0 | 0.0 |
| 米ツガ正角(現地挽) | 25.0 | 10.4 | 8.3 |
| 米ツガ防腐土台角 | 20.0 | 14.0 | 8.0 |
| 米ツガ割物(現地挽) | 34.8 | 17.4 | 8.7 |
| 米マツ平角 | 31.5 | 14.8 | 6.0 |
| 北洋アカマツタルキ(現地挽) | 9.7 | 5.0 | 1.7 |
| ホワイトウッド集成管柱 | 10.7 | 8.9 | 5.6 |
| レッドウッド集成平角 | 22.2 | 9.3 | 5.8 |
| 型枠合板(輸入) | 40.0 | 20.0 | 15.2 |
| 針葉樹構造用合板 | 30.4 | 8.7 | 9.5 |
| 針葉樹構造用合板(厚物) | 28.3 | 9.1 | 10.0 |

・スギ正角はグリーン、KDとも保合。
・ヒノキは正角、土台角とも保合。
・米ツガは正角(現地挽)、防腐土台角、割物(現地挽)とも強保合。
・米マツ平角は原木高で強含み。
・北洋アカマツタルキ(現地挽)は横ばい。
・WW集成管柱は横ばい。
・RWは輸入コストの上昇により強保合。
・型枠合板(輸入)は現地価格上昇で強含み。
・針葉樹構造用合板は厚物を含め強含み。